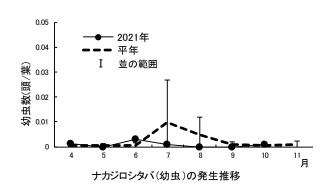
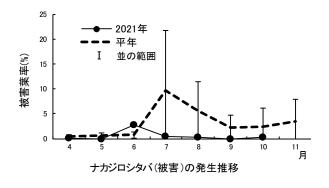
作物	カンショ		地域	沖縄群島
病害虫名	ナカジロシ	タバ	M	
調査結果	10 月の発生量(平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow		
3 112	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		



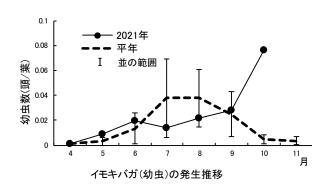


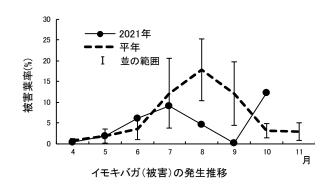
幼虫発生ほ場率:25%(平年値 15%)

防除のポイント

・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

作物	カンショ		地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ			S. P.
調査結果	10 月の発生量(平年比)	多		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow		X.
	11 月の発生量(平年比)	多		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		





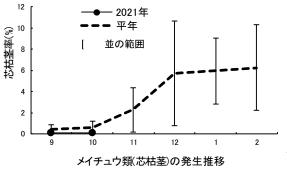
幼虫発生ほ場率:100%(平年値 84.6%)

防除のポイント

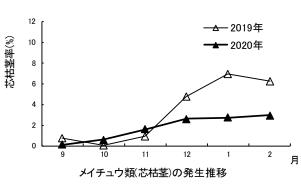
・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。

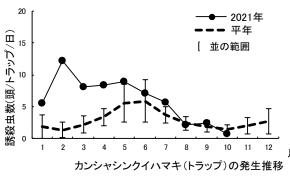
作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			ぐモギト
調査結果	10 月の発生量(平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	7	カンシャシ	ングイハマキ
3 112	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	芯枯茎率の平年の発生量の	推移(ク)
調査結果				

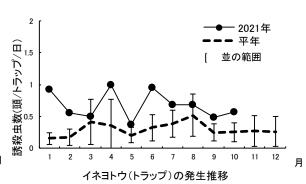




過去2年の推移





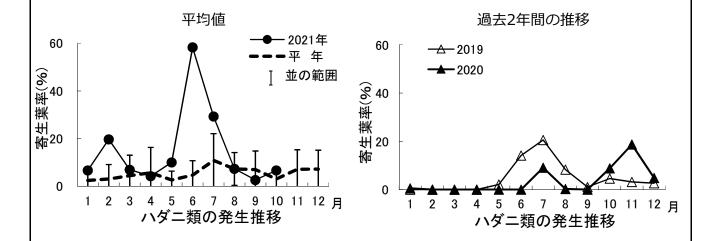


・芯枯れ発生ほ場率:16.7%(平年値:35.4%)

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を 加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	かんきつ(温州みかん)		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダ二類			114 20
調査結果	10 月の発生量(平年比)	並		300
予報	10 月からの増減傾向	7	4.7	
3 114	11 月の発生量(平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移()		
		今後1か月の降水量が平年	並か少な	い見込み

調査結果



・ 発生ほ場率:40.0%(平年:32.6%)

防除のポイント

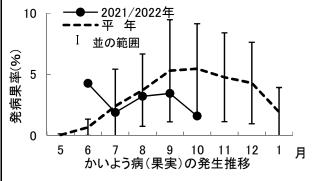
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

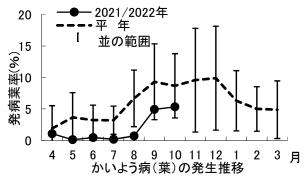
作物	かんきつ(タンカン)		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	10 月の発生量(平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	K		*
AT C	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(〉)		

発病果率・平均値



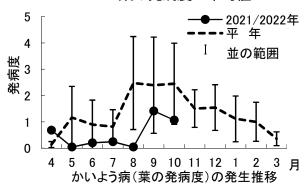
・ 発生ほ場率:80.0%(平年78.0%)

発病葉率・平均値



・ 発生ほ場率:60.0%(平年85.7%)

葉の発病度・平均値



防除のポイント

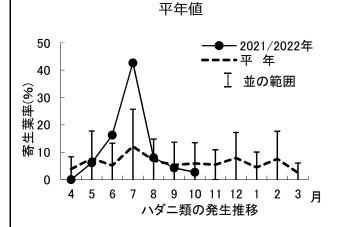
・本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、 ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。

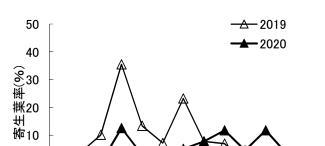


被害葉→

作物	かんきつ(タンカン)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ハダ二類			
調査結果	10 月の発生量(平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow	1	
3 114	11 月の発生量(平年比)	並		
マむの担加		平年の発生量の推移(→)		
	予報の根拠	今後1か月の降水量が平年	並の見込	み

調査結果





4 5 6 7 8 9 10 11 12 1

ハダニ類の発生推移

過去2年間の推移

・ 発生ほ場率:40.0%(平年:35.7%)

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



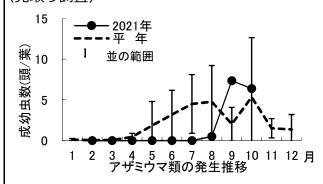
ハダニの寄生による葉のかすれ症状

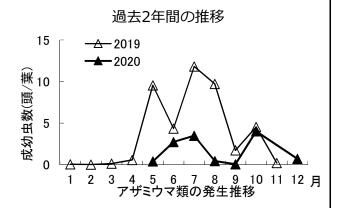
2 3 月

711 3 千皮	11 万分数			
作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイ	コアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量(平年比)	並	•	
予報	10 月からの増減傾向	K		
3 112	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(ゝ)		
調査結果				

(見取り調査)

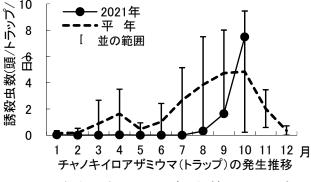
平均值

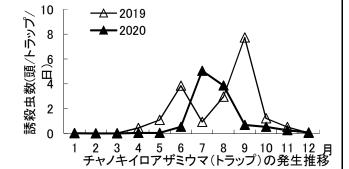




(トラップ調査)

平均值





過去2年間の推移

- ・発生施設率:80%(平年値:83.6%)
- ・一部ほ場で発生が多く見られた

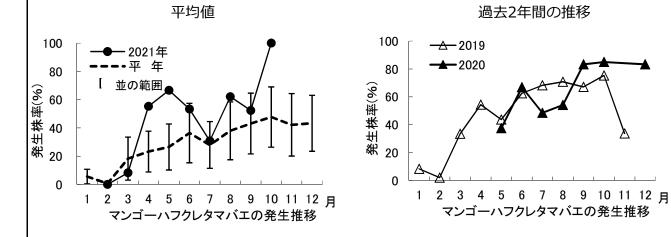
防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ

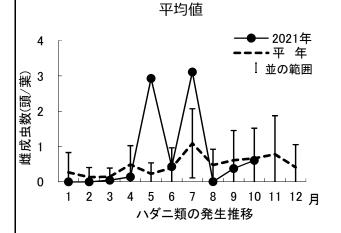
作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	マンゴーハ	フクレタマバエ	N.	
調査結果	10 月の発生量(平年比)	多		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow		
3 112	11 月の発生量(平年比)	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移(👈)		
	J/羊収Vノ4区12地	新梢の発生量が減少するた	め	

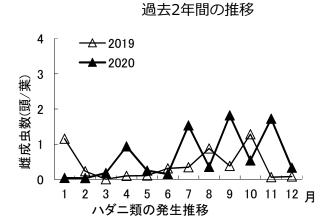


・発生施設率:100%(平年値:72.4%)

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、 地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① ハダ二類			
調査結果	10 月の発生量(平年比)	项		
予報	10 月からの増減傾向	7		シュレイツメハダニ
3 112	11 月の発生量(平年比)	並		
	マむの担加	平年の発生量の推移()		
	予報の根拠	今後1か月の降水量が平年	並の見込	み





・ 発生種:シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ

· 発生施設率:50.0%(平年值:55.6%)

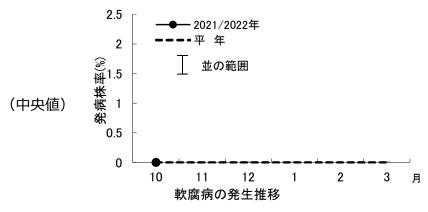
防除のポイント

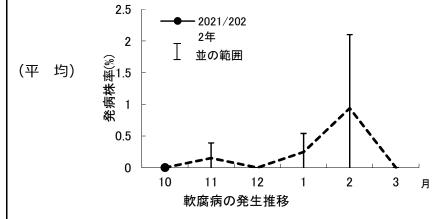
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	レタス		地域	沖縄群島
病害虫名	① 軟腐病			
調査結果	10 月の発生量(平年比)	(発生なし)並		
予報	10 月からの増減傾向	7		
J 7K	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(♪)		
調査結果				



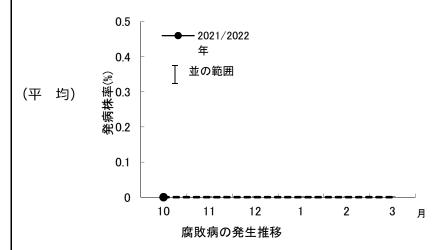


・発生ほ場率: 0.0% (平年値: 0.0%)

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・菌の侵入源となる傷口の発生を助長するヨトウ類の幼虫やナメクジなどの駆除に努める
- ・薬剤散布は予防を主として、株元を中心に、丁寧に行う。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス		地域	沖縄群島
病害虫名	腐敗病			
調査結果	10 月の発生量(平年比)	(発生なし)並		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow		
3 74	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		

調査結果

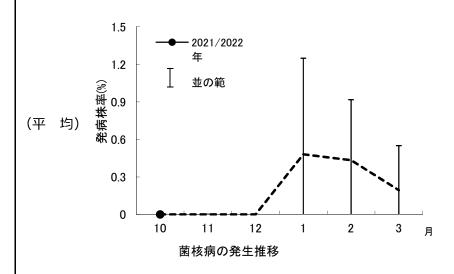


・発生ほ場率: 0.0% (平年値: 0.0%)

- ・ほ場の排水を良くするとともに、密植栽培を避けて通風をよくする。
- ・発病株は放置せずに抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス		地域	沖縄群島
病害虫名	菌核病			
調査結果	10 月の発生量(平年比)	(発生なし)並		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow		
3 112	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		

調査結果

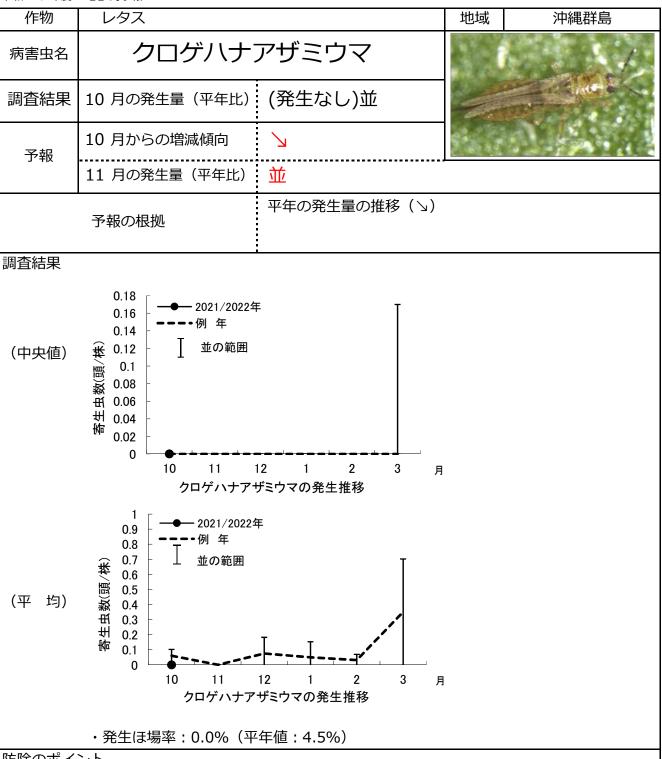


・発生ほ場率:0.0%(平年値:18.8%)

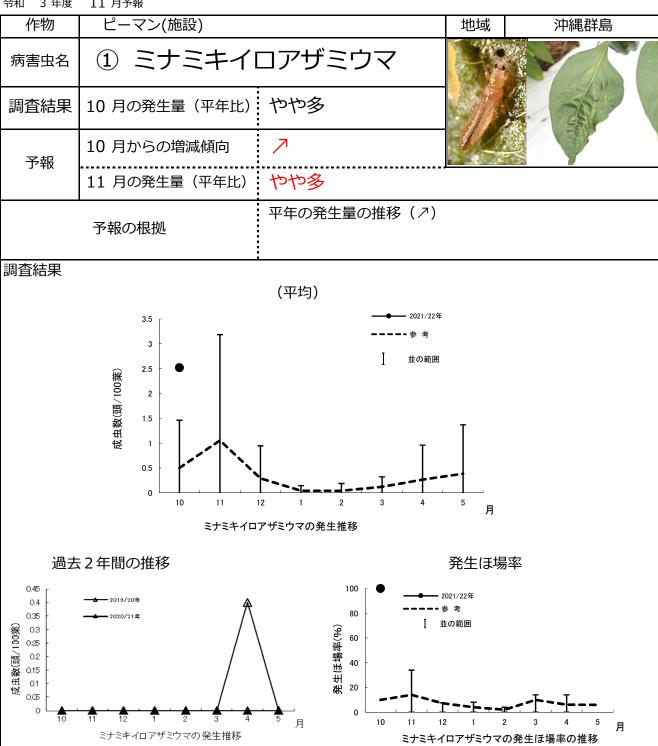
- ・密植栽培を避けて、通風をよくする。
- ・被害株は菌核を形成しないうちに、早めに抜き取る。
- ・本病が発生しやすい作物での輪作・連作は避ける。
- ・多発生したほ場は、休閑期に天地返しや土壌消毒を行う。

作物	レタス					地域	沖縄群島
病害虫名	アフ	ブラムシ	類				
調査結果	10 月の発生	量(平年比)	(発生なし	ノ)並			
予報	10 月からのり	増減傾向	\rightarrow			7	
	11 月の発生	量(平年比)	亚				
	予報の根拠		平年の発生	量の推移	(→)		
(中央値)	0.5 0.4 0.3 (對/題) 發 可		∃ 12 1	 2	3	月	
(平 均)	(1) (1) (1) (2) (2) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	アブラムシ類	F 12 1 の発生推移	2	3	」 月	
防除のポイ		至:0.0%(平	午1但:40.09	0)			

- ・多発すると防除が困難になるので、葉裏を観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・天敵に影響の少ない、選択性殺虫剤を選定する。



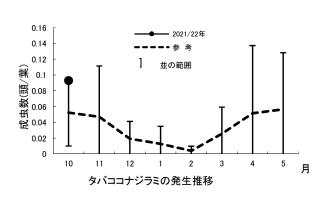
・老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢期の防除が重要である。



- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス及びトウガラシ退緑ウイルスを媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネットを張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い初期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

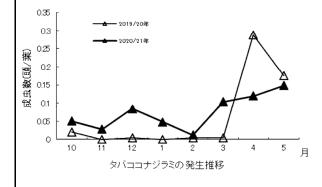
作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② タバココナ:	ジラミ		
調査結果	10 月の発生量(平年比)	项		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow		
3 114	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		

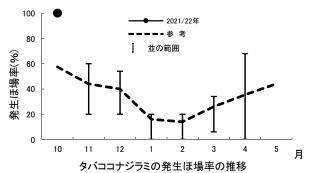
(平均)



過去2年間の推移

発生ほ場率

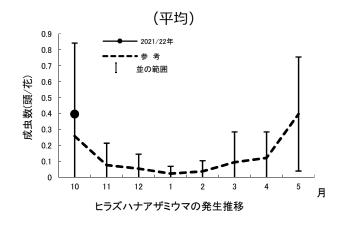




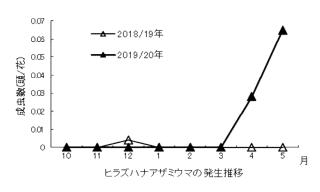
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、 早期発見防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、 気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の 少ない選択性殺虫剤を使用する。



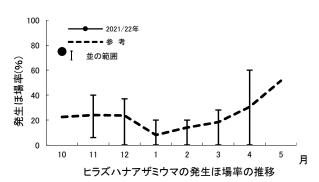
作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	ヒラズハナ	アザミウマ	1	
調査結果	10 月の発生量(平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	7	-	
AT C	11 月の発生量(平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移(〉)		



過去2年間の推移

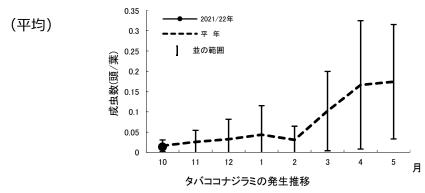


発生ほ場率

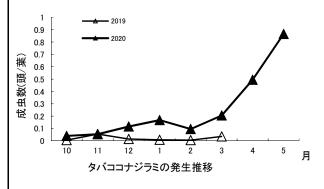


- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へ夕部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

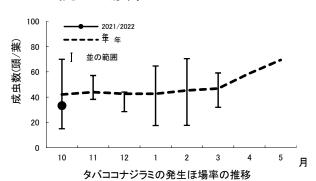
作物	トマト(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	コナジラミ	類		
調査結果	10 月の発生量(平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow		タバココナジラミ
3 112	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		
調査結果				







(発生ほ場率)



- ・本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設開口部には目合い0.6ミリ以下の防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。

作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑り	声		
調査結果	10 月の発生量(平年比)	多		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow	a	
	11 月の発生量(平年比)	多		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		
調査結果				
(中央値)	3 - (%) 教 2 -	→ 2021年 → → 平 年 I 並の範囲		
	0 	10 11 月 D発生推移		
(平 均)	15 - (%)樹 紫 6	——— 2021年 ■——• 平 年 ∐ 並の範囲		
	309黒斑・褐斑病	→ 10 11 月 の発生推移	₹	
	ま場率:75.0%(平年値:9 ま場で多発	9.6%)		
防除のポイ				

- ・苗は健全株から採苗する。
- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。

作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病		AT THE	
調査結果	10 月の発生量(平年比)	(発生なし)並		
予報	10 月からの増減傾向	\rightarrow		
	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(→)		
(中央値)	1.0 0.8 0.8 (%) 0.6 州 (%) 0.4	◆		
(平 均)	1.0 0.8 (%) 例 0.6 州 (%) の.4 北 0.2 0.0			
・発生(ま場率:0.0%(平年値:0.	.0%)		
は吹かポイ	<u> </u>			

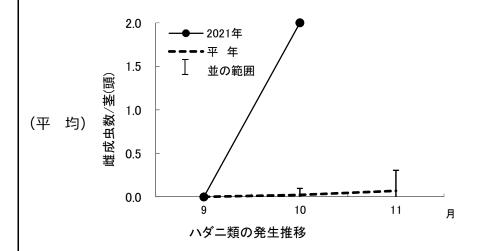
- ・多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物		カア牧	· 7(年末出荷用)			地域	沖縄群島
				<u></u>		المتعادية	717神七日十二五
病害虫名	(2))	アザミウマ				
調査結果	10	月の	発生量(平年比)	多			
予報	10	月か	らの増減傾向	\rightarrow			
3 112	11	月の	発生量(平年比)	多			
	予载	銀の材	艮拠	平年の発生	生量の推移(-	→)	
調査結果							
		1.0	Γ	•	—— 2021 ±	Ŧ	
		0.8			平 年		
	(Ē				並の範囲	∄	
(中央値)	/辇(頭)	0.6		,	<u></u>		
(1)(1)	数	0.4	-				
	成虫数/	0.2					
	_			т			
		0.0	9	10	11	─ 月	
			アザミウマ類の	の発生推移			
		1.5					
		1.5	 2021 ⁴ 平 年				
		1.2	□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□				
	(運)素	0.9	1 1E 07 #UE				
(平 均)	\sim	0.6					
	成虫数				Т		
	ゼ	0.3		L			
		0.0	L				
			9	10	11	月	
			アザミウマ類(
			00.0%(平年值:				
		5:多	発生(伊江島、久	ス米島)			
防除のポイ	ント						

- ・成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上~中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		4	150 P
調査結果	10 月の発生量(平年比)	多	good see	Marie Const
予報	10 月からの増減傾向	7		· Garage
3 112	11 月の発生量(平年比)	多		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(♪)		

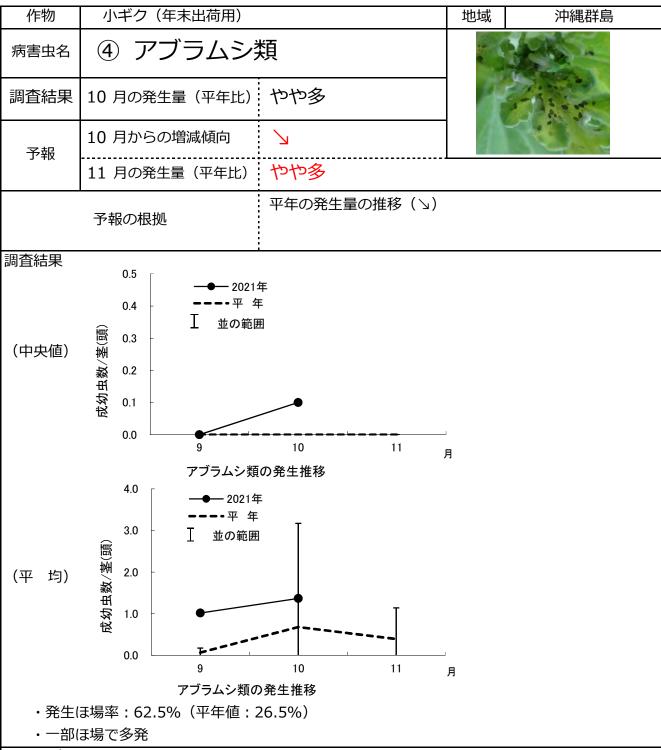
調査結果



・発生ほ場率:62.5% (平年値:7.2%)

·病害虫防除員報告:久米島(中発生)

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。



- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。





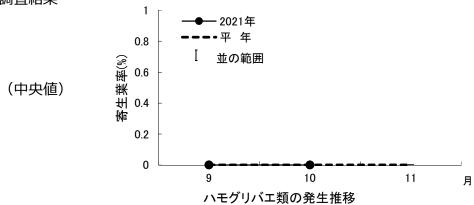
被害の様子

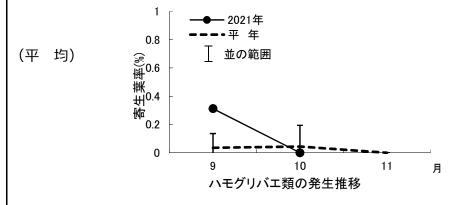
有翅虫

作物	小ギ		末出荷用)			地域	沖縄群島
病害虫名	(5)	カス	ミカメ				
調査結果	10 月	 の発生	量(平年比)	やや多			
予報	10 月	からのり	曽減傾向	7			
	11 月	の発生量	量(平年比)	やや多			
	予報0	D根拠		平年の発生量	畳の推移(↗)		
調査結果		0.05	_ 	- 2021年 - 平 年			
(平 は	匀) 簡)桝/1	0.03	1	並の範囲			
	() () 成幼虫数/茎(頭	0.02 -	Ţ				
		0	9 カスミカメ	10 類の発生推移	11	 月	
		0.05			─●─ 2021年		
		0.04			平 年		
	(更 (型 (型)	0.03			工 业分制团		
(中央位	直) 蒸 油	0.02					
	成幼虫	0.01					
		0	9	10	11	 月	
			•	類の発生推移		,,	
・発生ほ場率:12.5%(平年値:1.5%)							
防除のポイン		 . »	ユナヘキル	トノ知宛してい	いたたにこ		

- ・電照下では吸汁被害が目立つため、よく観察して防除を行う。
- ・周囲のほ場に収穫残りの花があると発生源になる場合があるので除去する。

作物	小ギク(年末出荷用)		地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫			
調査結果	10 月の発生量(平年比)	(発生なし)並	1	
予報	10 月からの増減傾向	7		
XIT C	11 月の発生量(平年比)	並		
	予報の根拠	平年の発生量の推移(〉)		
調査結果	0.8 - 2021年			





・発生ほ場率: 0.0% (平年値: 5.1%)

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。